第１回京都市同和行政終結後の行政の在り方総点検委員会（議事録）

平成２０年４月２３日（水）９：３０～１１：４５

【淀野】　おはようございます。予定の時刻となりましたので，ただいまから第１回京都市同和行政終結後の行政の在り方総点検委員会を開催させていただきます。本日は，委員の皆様方には大変お忙しい中ご出席賜りまして誠にありがとうございます。この委員会では徹底的に透明性の高いご議論をお願いしており，会議は公開としておりますので，傍聴席を設けるとともに報道関係者の方々の席も設けさせていただいておりますので，あらかじめご了承願います。なお，報道関係者の皆様へのお願いでございますが，テレビカメラ等での撮影につきましては定点で撮影していただくなど円滑な議事運営のためご協力いただきますようお願いいたします。

それでは，議事に入ります前に，今回は第１回目の委員会となりますので，委員の方々及び京都市からの出席者をご紹介させていただきます。

まず，委員の方々をご紹介申し上げます。

弁護士で前京都弁護士会副会長の安保千秋様でございます。

【安保】　よろしくお願いします。

【淀野】　前京都人権擁護委員協議会会長でいらっしゃいます田多耀子様でございます。

【田多】　田多でございます。よろしくお願いします。

【淀野】　元日本弁護士連合会会長でいらっしゃいます中坊公平様でございます。

【中坊】　中坊です。どうぞよろしく。

【淀野】　同志社大学大学院総合政策科学研究科長でいらっしゃいます新川達郎様でございます。

【新川】　よろしくお願いいたします。

【淀野】　公認会計士・税理士で日本公認会計士協会京滋会会長の長谷川佐喜男様でございます。

【長谷川】　どうぞよろしく。

【淀野】　日本労働組合総連合会京都府連合会事務局長でございます細田一三様でございます。

【細田】　細田でございます。どうぞよろしくお願いします。

【淀野】　元ＮＨＫ京都放送局長で，源氏物語千年紀委員会ゼネラルプロデューサーの山本壯太様でございます。

【山本】　どうぞよろしく。

【淀野】　立命館大学産業社会学部教授でいらっしゃいますリムボン様でございます。

【リム】　よろしくお願いいたします。

【淀野】　社団法人京都経済同友会代表幹事でいらっしゃいます渡部隆夫様でございます。

【渡部】　渡部でございます。よろしくお願いいたします。

【淀野】　京都市文化市民局理事の西村文治でございます。

【西村】　お世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

【淀野】　なお，社団法人京都青年会議所特別顧問で前理事長でいらっしゃいます山下隆子様にも委員をお願いしておりますが，本日所用のためご欠席されております。

また，誠に恐縮でございますが，席上に委員の皆様への市長からの委嘱状を置かせていただいておりますので，よろしくお願いいたします。

次に，本市の出席者をご紹介申し上げます。

京都市長の門川大作でございます。

【門川】　門川です。どうぞよろしくお願いします。

【淀野】　副市長の星川茂一でございます。

【星川】　星川でございます。どうぞよろしくお願いします。

【淀野】　文化市民局長の山岸吉和でございます。

【山岸】　山岸でございます。よろしくお願いします。

【淀野】　最後に申し遅れましたが，私，文化市民局人権文化推進担当部長の淀野と申します。よろしくお願いいたします。

以上で委員の方々及び本市出席者のご紹介を終わらせていただきます。

続きまして,次第３の委員長の選出と副委員長の指名に移りたいと思います。

最初に委員長の選出ですが，委員会設置要綱第５条によりますと「委員会に委員長及び副委員長を置く」となっており,「委員長は委員の互選により定める」となっております。これに基づき委員の皆様からご推薦をちょうだいしたいと存じますが，いかがでしょうか。

【細田】　新川先生はいかがでしょうか。

【淀野】　ただいま新川委員にというご推薦がございましたが，いかがでしょうか。（拍手）

【淀野】　拍手で同意をいただきましてありがとうございます。皆様からご賛同をいただきましたので，新川委員に委員長をお願いしたいと思います。

それでは，要綱により議長は委員長を務めていただくこととなっておりますので，新川委員長には委員長席にお移りいただきたいと存じます。

それでは，ここで，ただいま委員長に選出されました新川委員長から一言ごあいさつをいただき，その後の議事進行をお願いしたいと思います。委員長，どうぞよろしくお願いいたします。

【新川】　ただいま委員長にご選任をいただきましてありがとうございました。ありがとうと言っていいかどうかよくわからないところがある大変難しい問題でございますけれども，皆様方のご負託に応えられるように，そして京都市民の多くの方々のご理解を賜れるような，そういう審議を進めてまいれればというふうに考えております。問題が問題だけに，委員の皆様方もそれぞれこの委員会にご参加になられるに当たりましていろんな思いでおられるかと思いますが，十分に審議を尽くし，各方面のご意見をちょうだいいたしながら，よりよい結論を私どもなりに出していければというふうに思っております。どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは，以降，私のほうで進めるということで，最初に決めさせていただかないといけませんのは，当委員会の設置要綱にもございますとおり，私に事故があるときにどなたに代わりをやっていただくかということでございます。大変恐縮ですけれども，京都のまちづくり等々にお詳しいリムボン先生に副委員長をお願いしたいというふうに思っておりますので，ひとつよろしくお願いいたしたいと思います。皆様方にもよろしくご承知おきをいただければと思います。リム先生，ひとつよろしくお願いをいたします。それでは，リム先生には副委員長席というのが一応あるようでございますので，恐縮ですがよろしくお願いいたします。

本日の報告事項，議題事項がございますが，その前に門川市長様においでいただいてございます。まずは一言ごあいさつをいただければというふうに思っ

ております。よろしくお願いいたします。

【門川】　おはようございます。京都市長の門川大作でございます。同和行政終結後の行政の在り方総点検委員会発足に当たりましてごあいさつ申し上げます。この委員会は，今後の京都市政，京都のまちづくり，さらには京都市政と市民との信頼関係の確立，様々な分野におきまして極めて重要な委員会であると思います。それぞれお忙しい方々，各界のトップリーダーの方々に委員ご就任をお願いしましたところ，無理をお願いした方もおられますけども，快くお受けいただきまして本当にありがとうございます。どうぞよろしくお願いします。

まず，この委員会の名称ですが，同和施策についての在り方を点検するということじゃなしに，同和施策終結後の行政の在り方そのものを総点検していただこうということにしております。大きく６点の検討課題というのを事務局のほうからお願いはいたしておりますけれども，それに限らず，今の京都市政の実態をありのままに見ていただいて文字通り総点検していただいて，厳しいご意見も賜れば今後の京都のまちづくりにとってありがたい，そのように思っており，非常に重要視しておりますので，どうぞよろしくお願いしたいと思っています。

京都では戦前からいち早く同和問題をはじめ，あらゆる差別をなくすということで，志の高い市民の方々が先進的なお取組をされてきました。京都市政も全国の先頭に立ってさまざまな取組がなされてきました。そして，そうした京都あるいは全国津々浦々の国民のうねりのような声が国政を動かし，昭和４０年に同和対策審議会答申，同対審答申が出され，同和問題解決は国民的な課題である，同時に国あるいは行政の責務である，そのように位置付けられ，様々な法律がつくられ行政施策が展開されてきました。私は大きな成果があったと思っています。とりわけ先ほども申しましたように京都では先進的な取組が地域の住民，同和地域の方々の運動，さらに幅広い市民の取組，そして京都市政の取組のもとに進んでまいりました。大きな成果があり，私は同和問題解決へ向けて大きな前進をしたこの半世紀余りでなかったかと，そのように思っております。同時に長い間の同和施策の推進の中で負の側面があったことも率直に認めなければならない事実であります。そして今，同和行政終結後の京都市政の在り方について，いろんな市民の間に不信感があることは事実であります。

それらを払拭していくこと，これは同和問題解決にとっても極めて大切なことであります。そうした意味でも，この委員会の持っている意味は非常に大きくございますので，よろしくお願いしたいと思っています。

私自身，長年教育の世界におりました。教育の世界におって京都市政全体も見てきまして，前桝本市政のもとで，例えば運動団体の在り方で交渉を廃止していく，あるいは職務専念義務の免除というのは過去多くなされていましたけど，それも全面的に廃止する，あるいは補助金を廃止する，あるいは同和地区住民の職業的な自立のためになされた現業職への優先雇用につきましても歴史的な意味があったと思いますけども，長く続き過ぎたという，そんな面があります。これも平成１３年度をもってすべて廃止されております。平成１３年度をもって奨学金以外のことはすべて廃止されて，奨学金についても５年間の経過措置を設けて廃止されました。それでもなお様々な課題があることは事実であります。それらについて忌憚のないご意見を賜りたい。とりわけ自立促進援助金の問題，これは法的にも非常に難しい課題があろうかと思います。専門的な議論も深めて答申をお願いしたいと思っていますし，それから改良住宅の管理あるいは建て替え，あるいはあえて旧同和地区という言い方をしますけど，そのまちづくり，そうしたことも大きく新たな視点での検討が必要ではないかと,そのように考えております。浴場の問題も含めて様々な課題がありますが，どうぞよろしくお願いします。

負の側面の話を強調し過ぎた感がありますけど，私は教育委員会におりまして非常に明るい展望を感じたことがあります。京都は１２００年を超える悠久の歴史を誇っております。同時に差別と偏見が厳しいまちであったことも事実であります。そんな中で，今，旧同和地区を含む学校とそうでない周辺の学校との学校統合が大きく進んでおります。下京区では５つの中学校が統合して新たな下京中学校が誕生する，そして新たに旧皆山中学校の跡地に３つの小学校が統合する，あるいは東山区では旧同和地区を含む小学校，そして中学校が清水寺のふもとにある清水小学校，六波羅蜜寺の横にある六原小学校，えべっさんの横にある新道小学校等々と統合する。そして，あえて名前を出してもいいと思いますけど，弥栄中学校，ＮＨＫの「プロジェクトＸ」で「弥栄の真吾」などと言われた，かつて極めて荒れた学校でありました。その弥栄中学校と洛

東中学校，そうした小学校，中学校７つが統合して，地域ぐるみでＰＴＡも一緒になってボトムアップで小中一貫の新しい９年制の学校をつくろうやないかということが住民，保護者の方々から京都市のほうに提言される。５年前１０年前には考えられなかった新しい時代が来ております。これは長年にわたる地域の方々の努力，旧同和地区住民の努力，さらには経済界でも大学でも様々なところで差別をなくす取組が営々と続けられてまいりました。京都市政も先人たちが努力してきた，そうした努力の集大成じゃないかなと。こんなことは，私，全国を見ましてもどこでも起こっておりません。こうした明るい展望，新しい時代が来ているんだということに確信を持ちながら，同時にそうしたときに京都市政がさらに変化を遂げなければならない，そのことも痛切に感じております。

どうぞ資料等が必要でしたらどんどん出させていただきますし，委員会の運営は委員長初め皆さん方に当然ですがお任せさせていただきますし，様々な形で市民の意見もお聞きいただき,そしてご提言をお願いしたいと思っています。１年間と期限をあえて限り，さらにはできるだけ早く中間答申もいただきたいと思います。そして，それらについては私ども京都市役所挙げて確実に実施することをお約束させていただきまして冒頭のごあいさつにさせていただきます。どうぞよろしくお願いします。

【新川】　どうもありがとうございました。ただいま市長さんからは，この問題に関連いたしまして，これまでのご経緯，そしてこれから京都市として考えていかなければならないこと，その中で私どもの審議に期待をされているところについてお話をいただきました。市長様からのご期待に添えるよう委員一同頑張っていきたいというふうに思っております。委員の皆様方にもひとつよろしくお願いいたしたいと思います。

それでは，早速本日の議事次第のほうへ進んでまいりたいというふうに思います。

報告事項と議題がございます。まずはお手元資料等に従いまして報告のほうから始めさせていただきたいと思います。まずは市の事務局のほうからご説明方をお願いできますでしょうか。よろしくお願いいたします。

【事務局】　それでは，１つ目の報告でございますが,「京都市における同和行政の成果と

同和行政終結後の課題」についてご説明させていただきます。ここでは各検討項目の議論に入っていただく前に，我が国固有の人権問題である同和問題の解決に向けて本市が取り組んできた経過，その意義や成果を踏まえた上で，同和行政終結後に残された課題や不信感，これらを一掃していくための取組についてご説明いたします。

まず，Ａ３版の資料３「国・京都市の同和行政の動向」をご覧いただきたいと思います。長らく王城の地で厳しい部落差別が続いた京都において，米騒動の翌年，そして水平社創立の３年前の大正８年，三条託児所の設置により本市同和対策事業はスタートいたしました。以後，隣保館や浴場の整備など生活環境の改善に努め，昭和２年には不良住宅実態調査，戦後もいち早く同和地区実態調査を行うなど全国最先端の取組でございました。しかし，昭和２６年に本市職員によるオールロマンス事件が起こり，この中で部落差別は低位な生活実態に根差したものであり,それを放置してきた行政責任が厳しく問われ,以後,同和問題の解決を市政の最重要課題として関係部局を網羅した執行体制により,旧同和地区の住環境や住民の生活実態の改善に本格的に取り組むようになりました。

一方，国においては，昭和４０年に同和対策審議会答申が出され,「同和問題は憲法によって保障された基本的人権にかかわる課題であり，その早急な解決こそ国の責務であり，同時に国民的課題である」と位置付けられ，これを受けて昭和４４年に同和対策事業特別措置法が制定され，法的・財政的裏付けのもとに事業を飛躍的に進展させることができるようになりました。本市では昭和５４年に京都市同和対策各地区総合計画（案）を策定し，住環境や道路等の環境改善，学力向上を至上目標とする教育の充実，雇用や職業保障等の職業安定対策，隣保館を拠点とする生活相談や各種事業，これらに市民啓発活動の強化を加えた基本５施策を柱に各地区ごとに総合対策として取り組んでまいりました。また，国において昭和６２年に一般施策への円滑な移行のための最終法となるいわゆる地対財特法が制定されました。平成８年には地域改善対策協議会から特別施策の終了と今後の方策の基本的な在り方が提言され，本市においても平成８年に京都市同和問題懇談会から低位な実態の解消や格差の是正が達成されつつあるという状況を踏まえ，今後における京都市同和行政の在り方につ

いての意見具申を受けました。この意見具申は，同和行政の新たな地平を開く指針，エポックメイキングとして平成９年度を同和行政の改革元年とし，特別施策としての同和対策事業の見直し，同和行政の執行の在り方，運動団体との関係の在り方の３つの側面から同和行政全般にわたる見直しを行い，地対財特法延長後の法期限である平成１３年度末までに全国のトップランナーとなる同和行政改革を実行いたしました。

特別施策としての同和対策事業は，その重要性と緊急性から施策の対象を旧同和地区または地区住民に限定し，一般施策の補完措置として実施してきましたが，事業の進捗と住環境や生活実態の改善に応じて段階的に終息に向かうべきものであり，平成８年時点で実施しておりました６２項目の事業について廃止や一般施策への移行等すべての見直しを行い，平成１３年度末に特別施策としての同和対策事業は終結いたしました。同和行政の執行については，人権にかかわる部局が一体性を持って組織的な取組を進めていくため，庁内組織，人事配置，職員研修の在り方等について，いわゆる内なる改革，意識改革を進めてまいりました。

また，運動団体との関係につきましては，恐れ入りますが資料４の４ページをご覧いただきたいと思います。ここにありますように，同和問題の解決という共通の目標に向けて，互いの立場を尊重しつつ，対峙ではない協力の関係を発展させるという認識を基本に，それまで年間数十回に及んでいた交渉を他自治体に先駆け平成８年度に廃止いたしました。また，運動団体役員に対する職務専念義務の免除や補助金・カンパも廃止し，さらに地区住民の経済的基盤の確立に大きく寄与した本市技能労務職員への雇用についても１３年度末をもって廃止するなど，凛とした姿勢で大胆な改革を断行し，現在では健全な関係にあります。さらに平成１４年１月には，今後は一般施策を積極的に活用し，人権行政を推進していく中で同和問題の早期解決を目指すという基本的な考え方を示した「特別施策としての同和対策事業の終結とその後の取組」をまとめました。あわせて旧同和地区における行政の総合窓口であった隣保館から市民相互の交流とコミュニティ活動の拠点となるコミュニティセンターへの転換，区役所への所管変更をいたしました。

これまで述べましたとおり，本市では同和問題の解決を市政の最重要課題と

して昭和２７年以降３，３５０億円もの予算をつぎ込み，同和対策事業を積極的に推進してきました。こうした本市の取組と長年にわたる住民の同和問題解決への熱い思いや，それに裏付けられた解放運動の取組いわば市民ぐるみの大変な努力により，旧同和地区の住環境や生活実態は大きく改善され，さまざまな面で存在していた全市水準との格差も一部を除いて是正され，おしなべて低位な実態は解消されました。具体的には，５ページにございますように「道がある，細くなる，そこからが部落である」と言われた旧同和地区における著しく低位な住環境は，面的整備である住宅地区改良事業を中心に住宅建設や地区施設，道路，公園，河川等の整備・改善に取り組み，低位な実態は解消し，大きく改善されました。

教育については，教育保障が格段に進み，児童・生徒の学力及び進路の実態は大きく改善し，高校進学率の格差は是正され，大学進学率も大きく向上しており，住民の就労状況は若年層を中心に幅広い分野への進出が見られるようになってきました。また，生活相談や青少年老人対策事業等各種事業の展開，あるいは地区施設の活用等により社会生活の安定・向上と自立意識の高揚が図られ，また相談内容についても切実な生活・就労相談から問い合わせや要望などに多様化してきております。さらに市民意識についても，長年行政だけでなく市民ぐるみで様々な啓発活動が取り組まれてきた結果，周辺住民との交流が広がるとともに，同和問題に対する市民の理解と認識も深まり，差別意識は着実に解消しつつあると考えております。

しかし，これらの成果の一方，人口の減少や急速な少子高齢化，低所得者層の増大など，幾つかの課題も地区に顕著に現れております。

６ページをご覧いただきたいと思います。

京都市の旧同和地区の人口は，昭和４５年以降減少を続けており，平成１２年までの３０年間で６割近く減少し，特に平成３年以降からの９年間で３５％減と急減しております。世帯数も３０年間で３５％減と減少傾向が続いております。また，子供の数が減少する一方，高齢者のみの世帯や単身高齢者世帯が急増するなど少子高齢化が全市よりも数年早く進んでいると言われております。これは若年や壮年層，特に市職員を中心とした中堅所得者層の地区外への転出が大きな要因と考えられます。また，これに伴い世帯年収でもこれまでの２９

９万円以下の層と５００万円以上の層，この２つの山が構成されておったのですが，５００万円以上の山が大幅に減少し，全体に低所得化しておるという状況がございます。

さらに地域コミュニティの機能低下という課題も生じておりますが，これらの課題については現代社会が抱える課題そのものであります。ただ，市営住宅の居住者が８割を占める旧同和地区において特に顕著に現れたものと言えます。また，中堅所得者層の地区外転出をどうとらえるかによって評価も変わってくると考えております。

次に３でございます。特別施策終結後の平成１４年度以降は，施策対象を旧同和地区または地区住民に限定することなく住民一人一人の置かれている状況を踏まえ，個々のニーズに応じて施策を実施し解決を図っていくことといたしましたが，今なお同和問題を解決する上で残された課題として，市民意識，教育，崇仁地区における環境改善の３点が挙げられています。これらの残された課題の解決に当たっては，地対協意見具申にいう，「その解決のため」，「工夫を一般対策に加えつつ対応する」，すなわち一般施策の積極的な活用により同和行政の成果の普遍化，人権に関するあらゆる問題解決につなげていくことといたしました。また，少子高齢化やコミュニティ機能の低下など，旧同和地区に顕著に現れている課題については，市民生活に存在する課題として各部局が主体的にそれぞれの課題を的確に把握し，その解決に向けて創意工夫を凝らした有効な取組を展開していくこととなりました。特別施策終結後６年が経過し，この間，同和問題を人権問題の重要な柱の１つとして，人権尊重をあらゆる施策の基本理念とする京都市人権文化推進計画を全庁的に進め，着実な進捗が図られてきました。また，残された課題とされたもののうち市民意識については，平成１７年度の市民意識調査において，９割を超える市民が「人権はすべての市民の問題である」と認識し，同和問題の認知度も９割を超えるなど，これまでの取組により人権の基本的な考え方は定着しつつあると考えられますが，問題解決に向けた自主的な行動までにはまだ十分結びついてはいません。また，深刻な人権侵害につながる身元調査やインターネット上での悪質な書き込みなどが後を絶たない状況があります。教育については，同和教育で培った教育理念や手法を普遍化し，一人一人の子供を徹底的に大切にする本市教育の伝統の

もと，全市的な教育条件の向上を図るとともに，学校・家庭・地域の連携を深め，旧同和地区の児童・生徒はもとよりすべての児童・生徒の学力向上，進路保障に向けた教育改革・学校改革を推進しております。また，崇仁地区における環境改善については,これまでに改良住宅等１，１００戸余りや合築施設等の整備を進めてきましたが，今後なお２１３戸の住宅整備が必要とされる一方，この間，地区人口の減少，高齢化が加速度的に進んでいることから，住宅建設と地区施設整備の早期完了，さらに地区の活性化に向けた新たな事業手法の導入などが必要になると考えております。

４でございます。これまで述べたとおり，半世紀以上にわたる京都市の同和行政，そして改革が大きな成果を上げてきた反面，新たに負の側面も生み出しました。また，平成１７年１１月市会において,「今なお一部に実質的な優遇措置，特別施策的な扱いが継続されていることは重大である」との市会決議が全会派一致で可決されたことをはじめ，雇用つまり本市技能労務職員への選考採用における採用の甘さや採用後の管理指導不足が主たる要因であったされる本市職員による不祥事の続発，あわせて同和補助金訴訟や自立促進援助金に関する訴訟における司法の厳しい判断などを受け，市民からは厳しい視線が投げかけられています。さらに大阪市や奈良市の運動団体幹部による不正事案の報道などが相まって同和行政に対する不信感が生じ,市民の信頼が大きく損なわれ,これまでの成果が覆されかねない状況となっております。この市民の間にある同和行政に対する不信感を払拭しない限り同和問題の真の解決はあり得ません。

このため当総点検委員会を設置し，各界の市民の皆様の英知を集め，同和行政終結後の行政の在り方について総点検を行い，必要な改革・見直しを実行することにより行政に対する市民の不信感を一掃し，市民協働で人権文化の息づくまち・京都の実現を目指すこととしました。総点検に当たっては，これまでの取組の成果を十分踏まえた上で，改めて各取組が市民の共感的理解を得られるものとなっているか，同和行政終結後の今日的視点から行政の在り方そのものについてしっかりと検証していくことが必要となってまいります。とりわけ裁判で一部違法とされた自立促進援助金については，市民の理解を得られるものとなるよう制度を抜本的に見直す必要があり，また今日的状況から早急に検討を要するコミュニティセンターや市立浴場等の地区施設，改良住宅，さらに

は残された課題とされた啓発，教育，崇仁の環境改善の諸課題について改めて早急に点検・見直しを行い，改革した姿を市民にお示しする必要があると考えております。このため，当委員会においてこれらの課題について法的検討も加えつつ，幅広い市民感覚と高い人権意識を持って総点検を行っていただき，市民の理解の得られる結論を見出すとともに,総点検を通じて本市行政の在り方,市役所の体質改善に向けたご意見もいただきたいと考えております。そして，京都市はその結論，ご意見に基づき，直ちに改革・見直しを断行し，市民の信頼と理解のもとで同和問題の真の解決を図ってまいりたいと考えております。以上でございます。

【新川】　どうもありがとうございました。ただいま本市のこれまでの同和行政の成果を国の動向も踏まえてご説明いただきました。また，あわせて今回のこの委員会設置の背景になりました同和行政終結後の課題ということについてご説明をいただきました。ここまでのご説明につきまして委員の皆様方から何かご質問等ございましたらお願いをしてまいりたいと思います。とりわけ当委員会の使命にかかわってくるところをご説明いただいておりますので，ご確認等もいただければというふうに思います。いかがでございましょうか。

また後ほどご議論をいただく時間もございますので，もし今の段階で特になければ後ほどまとめてご意見，ご議論をいただければと思いますが，ここは先に進ませていただいてよろしゅうございますでしょうか。ありがとうございます。

今，ご説明をいただきましたように，このテーマにつきましては，本当にこれまでの長い長い経緯，歴史的には本当にこの国が形をなし始めたころからの問題というご指摘もございます。そういう歴史的な経緯，そして具体的な生活問題も含めまして考えなければならないところは多々あろうかというふうに考えております。そういうことも踏まえまして，今後，私ども各委員が共通の議論の基盤に立てるように，今後，少し関係団体の方々やあるいは地域の方からのご意見というのも伺っていきたいというふうに思っております。それから，できれば現地を見るような機会も設けていきたいというふうに考えています。そして，そうした審議の状況を市民の皆さん方にできるだけ共有していただくような透明度の高い運営をしてまいりたいというふうな考えでございます。そ

うい う方針でこれからの当委員会の運営を進めてまいるということでご理解をいただきたいと思いますが，よろしゅうございますでしょうか。はい，どうぞ，中坊委員，お願いいたします。

【中坊】　基本的にそれで結構なんですけども，ただ，総点検委員会のこれからの進行に関しまして，まず，今は市当局の，特に平成１３年度末で終わりました，いわゆる特別行政というものが終わってから以後の対応もご説明をいただいたと思うんですね。しかし，この委員会が本当に市民の信頼を得るためには，我々のこの総点検委員会が非常に公正に審議しておるということが，まさに透明手続の中において市民に理解されていく必要があると。そういう視点からいえば，私はまず今の市当局のご見解は一応承ったわけですけれども，同じような立場でこれに反してこれを批判しておる方が，市民ウォッチャー・京都という団体が現に存じて住民訴訟を提起され，今日も検討項目の中に入っておる，いわゆる自立促進援助金の問題について違法であると，行政は裁量権の範囲を逸脱しているという判断までいただいておるような事態になっているわけなんですね。したがって，私としては，そのような方が我々が検討項目に挙げておる事項についてどのような見解をお持ちであり，どういう指標に基づいてそういうことをなさっておるかということをまず聞かないと，市当局だけの言い分を聞いてすぐ調査に行きましたというのでは順序がちょっと違うんじゃないかなと。

それから，同時に旧同和地区の人たちの全部に即総点検・見直しということになれば，この方もまた当事者として非常に影響を受けられるわけですから，その方がまた今までの市当局がやってきた行政というものに対してどういう見解をお持ちなのか，今後どういうふうに自分たちが見直すのか，いや，見直さんといてくれと言わはるのか，そういうようなことを含めて，少なくとも両方一緒の，ウォッチャーの方でしたらカウンターリポートということになると思うんですけど，そういうような自分の意見のものをできるだけ早期に聞いてもらう。それから一方，また市のほうが同和地区３団体の関係の窓口になっておられると承っていますので，そういう３団体の方が今度はそれぞれ検討項目について自分たちはどのような考え方を持っておるのかという点をできるだけ早く我々のところへ載せていただいて，我々が決して偏見を持ってやっていないということを市民にもわかっていただけるような手続の進行をさせませんと，

市当局の言い分だけ聞いてすぐ実地調査に行ったというのでは，やはり手続が信頼を得ることにはならないと思うので,できましたらこの総点検委員会から，今のいう市民ウォッチャー・京都であるとか，あるいは同和３団体というところに同じような問いを今度は総点検委員会の名において照会して，できればそれを私に言わせれば１箇月ぐらいで，それぞれ皆さん，自分も研究されているんですから，できれば早くやっていただいて，それも我々は参考にしつつ我々なりの理解，あるいは討議を進めていくということが必要ではないかと。だから，今の市当局側の言い分だけを聞いて即我々が検討に入るというのは，ちょっとあれじゃないかという気がしますので手を挙げさせていただきました。

【新川】　ありがとうございます。今，中坊委員からは，基本的にこの私どもの委員会での審議が公正・平等に，そしてしかもしっかりとした審議ができるようにという観点から，様々な考え方をこの問題についてお持ちの方々から，まずはご意見をいただいて，それを参考にしながら進めていってはどうか，私もそういうつもりで先ほど今後の進め方をお話しさせていただいたところでございますが，特に具体的に意見を異にする方々にも意見照会をして，そしてそれを当委員会でもしっかり受けとめて議論をしてはどうかというご提案がございました。それもこの委員会での審議を始めるに当たって，できるだけ早い段階でそうしたご意見をまずはいただいて,審議を進めていくというご提案でございました。私自身，当委員会の進め方として大変使命にかなった進め方ではないかというふうに考えておりますが，ただいまの中坊委員のご提案のような形で当委員会として意見照会をさせていただく，当面は書面ということになろうかと思いますけれども，まずはそれを事務局とご相談の上で始めさせていただく，そういう手続を踏ませていただいてよろしゅうございますでしょうか。ありがとうございます。それではこうした手順も含めまして，先ほどご案内をいただきましたように，さらにこの問題をしっかりと理解できるようないろんな手だてを当委員会としても採っていきたいというふうに思います。今後はさらに必要に応じて現地調査，あるいは場合によっては関係者の方々との面談等々も含めて検討させていただきたいというふうに思っておりますので，よろしくお願いいたしたいと思います。

事務局のほうでこの点につきましては調整をいただけるということでお願い

をしてよろしゅうございますでしょうか。よろしくお願いをいたします。それでは，この点についてはまた後ほど，恐縮ですが私と事務局のほうで少し調整をさせていただいて進めさせていただくということでよろしゅうございますね。それでは恐縮ですが，よろしくお願いをいたします。

それでは，報告のほうは以上にさせていただきまして，今後の進め方のところにも入ってしまいましたけれども，最初の回のことでございますので行ったり来たりで恐縮でございますが，順次また次第に従いまして進めさせていただきたいと思います。

続きまして，本日の次第６番目の議題でございます。既に最初の市長ごあいさつの中でもございましたし，また先ほどのご報告の中でもございましたが，当委員会の検討項目，これにつきまして少し具体的にご質問内容も含めましてご検討をいただければというふうに思っております。この点につきまして，市のほうからまずはご説明方をお願いいたしたいと思います。よろしくお願いします。

【事務局】　それでは失礼いたしまして，資料５「総点検委員会における検討項目」というものをご覧いただきたいと思います。座ったままで失礼させていただきます。この資料に基づきまして，委員会において検討をお願いしたい６つの項目につきましてご説明をさせていただきます。なお，今後それぞれの項目については，具体的にご議論・ご審議をいただく際には改めて詳細な説明をさせていただくという前提で，本日は時間の都合もございますので概略的な説明に止めさせてただきますことをあらかじめご了承いただきますようにお願いいたします。

それでは，資料を１枚めくっていただきまして，１ページをお開きください。まず，検討項目１の自立促進援助金制度の見直しについてでございます。自立促進援助金制度とは，同和奨学金の貸与を受けた方が，それを分割して返還していく際に，本市から自立促進援助金の支給を受けてその返還に充てていくという制度でございます。この制度の経過でございますが，本市では同和問題の解決にとって重要な課題である教育の機会均等，進路の保障，ひいては将来の就職の機会の拡大を図るために，全国に先駆けて昭和３６年度から高校生を対象とした給付制の奨学金制度を設け，後にはそれを大学生にも対象を拡充いたしたところでございます。また，こうした本市の先進的な取組が，冒頭市長の

あいさつにもございましたように国を動かしていった中で，昭和４１年度からは給付制の奨学金に対する国庫補助の制度が新たに設けられました。以後，本市もこの国庫補助を活用して同和奨学金制度を実施してまいったところでございます。その後，国においては昭和５７年度に奨学金を給付制から貸与，貸し付ける制度に変更いたしましたが，当時，本市においてはまだ高校進学率になお格差があったことなどから，進路保障の重要性に鑑み，その制度を後退させないための市独自の援護措置として，この自立促進援助金制度を設けることとしたものでございます。

以降，同和奨学金を貸与した方に対しましては，奨学金は形式的には貸与という形態の制度でございますが，その返還時には独自措置として設けました，その返還額に見合う援助金が支給されるということから，実態としては返還を求めません，言いかえれば返還する必要はありませんという旨の説明を行って制度を運用してまいったわけでございます。これらの奨学金制度と自立促進援助金の制度を一体的に運用してきたことにより多様な進路選択が可能となり，特に若年層を中心に幅広い分野への進出がなされたことは，自立意識の高揚，同和問題の解決を図っていく上で意義のあったものと考えているところでございます。

その後，平成１５年５月に，後ほどご説明させていただきますが，住民訴訟に至る前段の本市に対する住民監査請求において，監査委員から自立促進援助金の支給に係る基準を定め所得判定を行うべきであるとの要望がなされたことなどを踏まえまして，平成１５年度末の１６年３月にこの自立促進援助金の支給要綱を改正いたしまして，平成１６年度以降に新たに貸し付ける同和奨学金を返還していただく際には所得判定を行うこととするということと，その所得判定の結果，基準を上回る場合には援助金は支給しないという改正を行いました。言いかえますと，平成１６年度以降は奨学金を貸与する際に返してもらうときには所得判定を実施しますよと，その結果，所得判定基準を上回った場合は援助金は支給しないので奨学金を直接返還していただく必要がありますよということを説明するようにしたわけでございます。したがいまして，平成１６年度以降に貸与した奨学金については，所得判定の結果，基準を上回った方に対する自立促進援助金の支給は一切していないという状況にございます。

なお，この同和奨学金には，国の補助を受けて実施している奨学金と国の基準を超える方に対して本市が独自に実施している就学奨励金というものの２種類の制度がございます。国の奨学金は平成１３年度末をもって廃止をされました。市の就学奨励金につきましても，平成１４年度からは大幅に金額を減額するといった抜本的見直しを行った上で，５年間の経過措置を設け平成１８年度末をもって廃止いたしたところでございます。

なお,国の奨学金の廃止の際にも同様の措置がとられたところですけれども,平成１８年度末時点においてまだ在学中の方につきましては，卒業時までは貸与を継続できるという措置をとってございます。例えば平成１８年度時点で高校１年生だった場合，その方が卒業を迎える平成２０年度までは貸与を受けられるという経過措置を設けたということでございます。

これまでのところを要約いたしますと，奨学金制度につきましては一部経過措置としてまだ残っているものはございますが，基本的には制度は廃止されているということでございます。残っているのは過去に貸与した奨学金を返済していただく際に支給をしている自立促進援助金の支給の問題でございます。先ほどご説明いたしましたとおり，平成１６年度以降に貸し付けた奨学金の返還につきましては所得判定を行っているところでございますけれども，それ以前に貸与した奨学金の返済につきましては，そもそもその奨学金を貸した際に実質的には返していただく必要はないという説明をしてきた経過等から自立促進援助金を一律的に支給してまいりました。また，この自立促進援助金につきましては，平成１６年度を境に所得判定を行う，行わないという別はございますけれども,現在の仕組みといたしましては,今後とも最後に貸し付ける奨学金,これが２０年分割で返していただくことになりますけれども，その分割返済が続いていく間は自立促進援助金の制度というものは存続していく，現状はそういう仕組みになっているということでございます。

こうした自立促進援助金の支給に関しまして，平成９年度から１４年度に支給した分，約９億円でございますが，これについて住民訴訟が提起をされました。そのうち平成１３年度以降に新規に支給した援助金のうち，援助金を一律に支給したこと，これが違法であって，その支出した額のうち約２，０００万円分が本市の損害であるということが判決をされたところでございます。なお，

平成１５年度以降に支出した分についても数回にわたり住民訴訟の提起等があったこと，あるいはその前段となります住民監査請求の中で，最近の監査結果において，支給基準，いわゆる所得判定基準ですけれども，これについても見直すべきという監査委員の意見があったことなどから，現在，昨年度平成１９年度の予算約３億円の執行を全額停止し，平成２０年度予算についても必要額の計上をしなかった，見送ったところでございます。

こうした状況を踏まえまして，まずは訴訟や監査で争点となっている所得判定の対象者を過去どこまで遡っていくべきか，あるいは支給基準の在り方がどうあるべきか，過去に本市から返還しなくてもいいという説明を受けて奨学金を借りた方に対して，本市が今から返してくださいという請求ができるのか，あるいは過去に説明をした所得判定基準をより厳しいものに変更するといったことができるのか，できるとすればどのような手続が必要であるのかといった法的な観点からの検討が必要であるとともに，それらを踏まえ，今後の自立促進援助金制度の在り方をどうしていくか，つきましては現行の制度の廃止も含めた抜本的な検討が必要な状況にあるというふうに考えているものでございます。

続きまして，資料の７ページをご覧いただきたいと思います。

次に,コミュニティセンターの在り方についてご説明をさせていただきます。本市では大正８年に全国に先駆けて三条地区に託児所を開設いたしました。その後，昭和１１年には家事見習所と統合して隣保館を設置して以降，隣保館では福祉センター，屋内体育施設，学習センターなどの機能を順次充実をし，旧同和地区における身近な行政機関，行政と住民のパイプ役として若年層の就労や読み書きのできない高齢者のための生活上の相談をはじめ，生活実態の把握や福祉施策の周知に努めてきたところでございます。この隣保館につきましては，平成９年には地対財特法が改正され，社会福祉事業法に基づく一般施策に移行されたところでございます。本市でも地対財特法の失効に伴いまして，平成１４年４月には隣保館条例をコミュニティセンター条例として全面改正し，コミュニティセンターを人権文化が息づくまちづくりを進めるための市民の交流と地域コミュニティ活動の拠点と位置付け，利用対象も順次全市民に対するところまで拡大をしてきたところでございます。現在市内に１５箇所のコミュ

ニティセンターがございまして，先ほど申しましたように，旧同和地区に限らず利用対象を広く市民に開放し，相談事業，講座，教室，講演会等の交流事業や貸館事業などを中心に，一部業務委託をしておりますが，直営を基本として運営を行っているところでございます。ちなみに現在の従事職員数が１０５名，運営経費は年間，一部委託を含めまして約３億円がかかっている状況でございます。

現在コミュニティセンターで行っております事業の利用状況等でございますが，一例を挙げますと，平成１８年度には生活上の相談等の件数は７，１２７件でございました。平成１４年度と比べて約３割減少しております。また，その内容も最近は一般的な問い合わせや要望等が多くなっているところでございます。

交流事業につきましては，市民しんぶんの活用等広報の充実に努めた結果，市民の利用される方の地域的な範囲につきましては広がりを見せているところでございますが，参加者数は１８年度実績として６，０５５人，こちらは平成１４年度と比べて約２割ほど減少しているというところでございます。また，貸館施設の利用につきましては，１８年度９，２０１件，これは１４年度と比較して５割増と増加傾向にございまして，市民の利用範囲も拡大しているところですが，全体として見ますと依然としていわゆる稼働率については低い状況にあるということでございます。

こうした旧隣保館の果たしてきた経過とその後の位置付けの変更，それから主な事業なり貸し館をされている状況がこのような状況であることを踏まえまして，今日時点における意義・役割を考慮したコミュニティセンターの在り方そのものについては根源に立ち返った検討が必要であるというふうに考えているというところでございます。

資料といたしましては，１１ページに非常に小さくて見にくいので恐縮でございますが，それぞれのコミュニティセンターごとの施設の概要の一覧表，それから１２ページには，先ほどご紹介させていただきましたが，利用者数等の数値データをつけさせていただいております。

次に，資料１５ページをお開きいただけますでしょうか。市立浴場等の地区施設の在り方についてでございます。市立浴場は大正１２年から地区の保健衛

生及び生活環境の改善・向上を図るために順次設置をしてまいりました。現在は１３の浴場がございます。今日においても改良住宅における浴室設置率，これが改良住宅全体の約１３％しか浴室設置がされておりません。ちなみに一般の公営住宅につきましては８割以上の住戸に浴室が設置してございます。こうした改良住宅における浴室設置率が非常に低いということも踏まえまして，市立浴場は生活に必要不可欠な施設となっているところでございます。また，住民の交流や憩いの場としての役割も果たすとともに，利用者の半数近くは高齢者あるいは障害のある方でございます。また周辺の住民の方の利用も４割程度見られるといった状況がございます。一方で利用者数，入浴者数は減少する傾向がずっと続いておりまして,平成１０年度から１８年度を比較いたしますと，民間でも３７％弱の減少を見せておりますが，同じように市立浴場につきましても,それを少し上回る４０％弱の減少傾向を示しているところでございます。それから，現在民間浴場は大人３９０円でございますが，市立浴場につきましては現在は２９０円ということで，なお１００円の格差があるという実情と，それから民間と比較しまして，市立浴場につきましては多額の運営経費を要している，１３の浴場で年間約５億円ほどの経費を要しているといった課題がございます。このためサービスの向上の方策あるいはより効率的な運営の在り方，ひいては生活に必要不可欠な施設という実態も踏まえた上で，その存続の可否も含めて検討が必要な状況にあるというふうに考えているところでございます。

また，学習施設，従前は学習センターと呼んでございましたが，同和問題の解決を目指して家庭・地域の教育力の不十分さを補い，同和地区児童・生徒の学力向上を図る目的で昭和４６年から順次開設をしてまいりまして現在１４施設がございます。現在の学習施設では自学自習の場の提供，図書室の運営をはじめとしまして体験交流や高校生学習相談等の講座・教室の実施を行い，また不登校児童・生徒の活動の場を開設するなど，多様な活用を図るとともに地域開放を推進しているところでございます。こうした現状の利用状況を踏まえまして，今後の在り方や活用方策，運営形態について改めてご検討をお願いしたい状況にあるというふうに考えているところでございます。

保健所分室につきましては，大正９年から順次８箇所にトラホーム治療所を設置し，それらを後に保健所分室と改称してきた経過がございまして現在１１

施設がございます。現在の保健所分室では保健所の保健師が原則として週２回午前中に学区の住民を対象とした健康相談を実施しているところでございますが，その利用件数は年間で延べ２，０８５件，実相談人数では１１３人と一定の件数がございますが，決して多いとは言えない現状であると。こうした状況を踏まえまして，保健所分室の在り方，施設の活用方法について，こちらも検討が必要な状況にあるというふうに考えているところでございます。

次に，２１ページをお開きください。改良住宅の管理・運営及び建て替えの在り方についてでございます。改良住宅は一般の公営住宅とは設置目的が異なるものでございます。一般の公営住宅につきましては，公営住宅法という法律に基づきまして，低所得で住宅に困っている，そういった方のために供給する住宅でございます。一方，改良住宅は不良住宅が密集する地域の住環境の改善を目的として，住宅地区改良法によって指定された対象地区内の土地・建物を全面買収，除却，クリアランスすることによって，その結果，みずから居住するための住宅を失うこととなりました従前からの居住者，事業に協力をされた方のための代替住宅として建設するものでございます。改良住宅の整備は，不良住宅が密集する地区の住環境改善，道路の基盤整備や住宅建設等を図る上で大きな役割を果たしてきたものでございまして，その結果，現在改良住宅は４，２２５戸ございます。本市の市営住宅総数２万３，６４９戸のうちの１７．９％を占めるという状況でございます。この改良住宅は最も古い住棟では築４９年になるなど老朽化が非常に進んでおります。これは公営住宅等と比べましても，例えば築３０年以上の住棟が公営住宅では４６％ほどであるのに対し，改良住宅は６２％が築３０年を超えているということ，それから先ほども申し上げましたが浴室がない住戸が非常に多いということ，また住戸面積が４０㎡以下の狭隘な住戸が多いと。４０平米以下の率は公営ではまだ２２％ございますが，改良住宅では３５％と多くなっているということでございます。さらに改良住宅の中でも例えば築３５年以上ということになりますと，住戸面積は３０㎡台，間取りの例で申しますと６畳，４．５畳，３畳，それから非常に小さなキッチンスペース，浴室はなしということでございまして，最近１０年以内に建てられたものですと，７０㎡タイプと５５㎡タイプと居住人数に合わせて２タイプの供給をしておりますが，７０㎡タイプでは６畳が３間とＬＤＫ，５５㎡タイプ

ですと６畳が２間とＤＫ，いずれも浴室があると。こうした建物とは大きな格差が生じておりまして，こうしたことを踏まえながら計画的に改良住宅の建て替えを図っていく必要があるような状況にございます。

また，改良住宅の管理運営につきましては，以前は例えば家賃額について公営住宅と比べて低く設定をしていたことをはじめとして，一般の公営住宅と異なる取扱が数多く残されていた実態がございました。このため同和問題懇談会の意見具申を契機といたしまして，家賃の額や滞納者に対する措置について，一般公営住宅の基準と同一とすることなど適正化のための取組を順次行ってまいったところでございます。しかしながら，現状なお不適切な入居実態，いわゆる実質的な空き家とかですけれども，そういったものがあるということ，あるいは空き家の一般公募等によりまして地区外から新たに入居をいただく，そうしたことを含めた空き家の活用方策，その他適正な共益費の算定と徴収，店舗使用料の設定とか家賃減額の仕組み等につきまして，公営住宅との差異やなお改善すべき課題があるといった状況にございます。このため，こうした課題に対してそれぞれの課題にどのように取り組むべきかということを含めまして，改良住宅の管理・運営及び建て替えの在り方について抜本的な検討が必要な状況にあるというふうに考えているところでございます。

改良住宅の管理・運営につきましては２５ページ以下に関連する資料を設けてございます。２５ページは改良・公営を含めました住宅の種別管理戸数でございます。細かくいいますと，それぞれの国の法律や要綱等に基づきまして性格が若干違うものがございまして，小規模改良住宅とか都市再生住宅とかがございますけれども，大きく分けますと公営住宅が約１万９，０００戸，改良住宅が４，５００戸，そのうち旧同和対策として建設された住宅が４，２２５戸ということでございます。

それから，２６ページには築年数別の戸数をまとめてございます。先ほどご紹介させていただいたところですけれども，３０年以上あるいは４０年以上たった建物が特に改良住宅において数多く存在するという状況でございます。

また，次の２７ページには住戸面積別で掲げております。こちらも同様に改良住宅のほうが狭い部屋の占める割合が公営に比べて多いという状況にございます。

以下，関連する資料をずっとつけておりますが，詳細な説明は省略をさせていただきます。

次に，資料３３ページでございます。崇仁地区における環境改善についてでございます。崇仁地区はＪＲ京都駅の東側にＪＲを南北に挟んで存在いたします,地区指定面積で１７万６，３００㎡という全国でも有数の大規模な旧同和地区でございます。崇仁地区につきましては，地区が非常に大きいということから，昭和２８年以降５つのブロックに分けて順次住宅地区改良法による住環境整備を進めてまいっております。この５つに分割したうちの４つ目，５つ目の部分，崇仁の北部第３地区，第４地区と呼んでございますが，こちらについて依然事業が継続中という状況にございます。崇仁地区全体では，これまで改良住宅９９５戸，公営住宅１４８戸の建設をしてまいりましたけれども，この北部第３，第４地区におきまして，計画上なお２１３戸の住宅建設がまだ残っている，それから買収が必要な家屋につきましても１８９戸が残っているという状況にあるところでございます。この北部第３及び第４地区につきましても，当初地区指定をした時期からもう既に２０年以上が経過しております。こうした結果，買収済みの用地が地域内に分散・点在している状況にあるということでまとまった土地が確保できず，防犯上の問題からフェンスで囲ってございます，そうしたフェンスに囲まれた空き地が多く存在するという状況がございます。またこの間,地区内の人口が大きく減少し少子高齢化が大きく進んでいる，結果として地域活力が低下してきているという問題が生じているところでございます。また，これまで供給してきた住宅は改良住宅のみでございまして，地区内で現に今持っている家にこのまま住み続けたい，あるいは定期借地権付住宅や分譲マンション等，持ち家を取得することを希望すると，こうした多様化する住宅ニーズに対して現状は応えることができないといった状況がございます。こうした状況を踏まえまして，今後この崇仁地区における住環境整備を早期に完了させて，あわせて多様な世帯が住み集うことにより地区の活性化が図れるような新たな事業手法も含めた検討をお願いしたいというふうに考えているところでございます。

最後に資料３７ページでございます。市民意識の向上に向けた人権教育，啓発の在り方についてでございます。人権問題に関する市民意識は，これまでの

啓発等の様々な取組により，最近の平成１７年度に実施した人権に関する市民意識調査の結果を受けましても市民意識がかなり高まってきているということが言えるという状況にございます。しかしながら，一方で差別につながるおそれのある身元調査が行われたり，あるいはインターネット上で掲示板等への悪質な書き込みがあるなど深刻な人権侵害につながるおそれのある行為がなお後を絶たない状況にございます。また，市民意識につきましても，本市におきましては人権問題に「気付き」,「考え」,「行動する」ということを目標としておりますが，意識が高まってきてはいるというものの，みずから解決のために行動するというところにはまだ十分つながってはいないのではないかといった状況にあると考えております。このため人権問題に対する差別をすることが許されない社会の構築に向けた取組として，市民意識の向上に向けた啓発の在り方について改めて検証・検討をお願いしたいというふうに考えているところでございます。

以上が，非常に簡単でございますが，検討をお願いしたい項目の概要でございます。よろしくお願いいたします。

【新川】　どうもありがとうございました。当委員会の検討項目について，６項目にわたりますが概略のご説明をいただきました。本当に考えないといけないことはたくさんございますけれども，ここまでのところで各委員さん方からご質問やご意見ございましたらば，いただいてまいりたいと思います。どうぞご自由にご発言をいただければというふうに思います。はい，どうぞ。

【細田】　一番目の自立促進援助金の制度でございますが，これはどちらかといえば裁判，法律で１３年度以前ということだと思うんですけど，ここの部分の判決のポイントはどこにあるかというのは，僕は少しまだわからないところがございますので，１つはそれを教えていただきたいのと，これから１４年，１５年，それぞれのところでまだ控訴されているわけで判決が出ていないところもございますので，どちらかといえばこれを少し専門的なところでの検討をした上で対応していただきたいなというふうに思います。ただ，私自身もポイントをとりあえず少し教えていただきたいと思います。

【新川】　ありがとうございました。それでは，事務局から簡単にで結構でございますけれども，一連の訴訟，それから監査のご意見もいただいておりますので，こ

のあたり，かいつまんでポイントをご説明いただけますでしょうか。

【事務局】　それでは，今ご質問ございました点について，概略になろうかと思いますが，ご説明させていただきます。

まず，先ほど訴訟の中で平成１３年度，１４年度分に支給したものの一部が違法であるという判決が出たというふうにご説明をさせていただきましたが，逆に言いますと，この裁判の中では，例えば１次・２次訴訟の高裁判決におきましては，平成１２年度以前につきましては違法とは言えないという判決が出たところでございます。平成１３年度以降に新規に支給した方に一律に支給したことが違法というところが，なぜ１３年度かということでございますけれども，コンパクトに申し上げにくいんですが，判決におきましては幾つかの時点で監査からの見直しの意見がついていたとか，そうした幾つかの状況を総合的に勘案しまして，平成１３年度以降に新規に支給したものについては違法であるという判断がなされたところでございます。

細かい話でございますけれども，その後，第３次の訴訟で，お手元の資料５と書いてございます検討項目の説明資料の４ページ，５ページのところでございますけれども，こちらにつきましては，現在，京都地裁判決の状況でございますが，平成１４年度以降の新規支給の一部が違法であると判断されていまして，こちらにつきましては１３年度以前については違法ではないということでございます。こちらのほうは同じく様々な状況から１４年度以降からは改善すべきであったということだろうと思いますけれども，これらにつきましては，特別措置法が１３年度末をもって期限が切れたということが影響しているんだと考えております。この訴訟のほうは，いずれにつきましても，いつ奨学金を貸し付けたかという時点には関わりなく，援助金をいつ支給したか，その時点をもって判断しているということが特徴でございます。

一方で監査委員の意見でございますけれども，５ページの表のところにございますが，こちらは法期限が切れた平成１３年度末以降，平成１４年度以降に貸し付けた分を返還していただく際に一律に支給するのが違法であるという勧告が出されたわけでございます。これは逆にといいますか，平成１６年度からは要綱を見直して一律に支給するということはやめているわけですけれども，さらに遡って法期限切れを受けた１４年度以降に貸し付けた分からはそういう

所得判定なりを設けるべきであった，あるいはその所得判定基準についても，不合理とまでは言えないが，いわば緩いのではないかというようなご意見をいただいたという状況でございます。

【新川】　ありがとうございました。この援助金につきましては，特に返還に際して，その返還を事実上一律支給という形で免除をする，そういう形になります。そのときに大阪高裁判決では，平成１３年度以降の新規分について一律に出すのは，これは違法であるというご判断でございました。それから京都地裁の判決では，現在係争中のものでございますけれども，こちらについては１４年度以降の新規分，これについて一律に出すのが，これは違法であると。一方では所得判定基準に基づいて支給をする分については，これは不合理ではないと，こういうご判断のようでございます。このあたり，かなり専門的な議論に入ってまいります。特に平成１３年までの地対財特法，国の法律のほうの５年間の期間をどう見るのか，また本市での同和対策終結後の市政運営の中でどういう位置付けがされているのか，このあたりを含めて総合的に判断をされているということであろうかというふうには思っております。細田委員，ちょっとわかりにくいところもございますが，この点については少し専門的に議論をさせていただいたほうがよろしいかなというふうに私自身考えております。

少し先走って恐縮ですけれども，この援助金の問題につきましては，できれば当委員会設置要綱の第７条に実は「専門委員会の設置ができる」という，こういう規定がございます。各検討事項につきまして特別に審議し検討する必要があるときは専門委員会を置くことができる，専門委員会は委員長が指名する委員または専門委員をもって組織すると，こういう規定がございまして，少し先走った判断になるかもしれませんが，委員長といたしましては，この専門委員会を設置させていただいて，この問題は少し法律専門家の方々，またこうした分野の施策のご専門の方々にご検討をいただいた上で改めて当委員会にその専門委員会での知見をお示しいただくというような形で整理をさせていただければというふうに思っておりますが，この点ちょっと先走っていると言われるかもしれませんが，委員の皆様方，もしご了解いただけるようであればそういう形で進めてまいりたいと思いますが，いかがでございましょうか。よろしゅうございますでしょうか。恐縮ですが，まだご意見をいただいている途中でご

ざいますけど，この点だけ先にそういう形で進めさせていただくということでご承認をいただきました。ありがとうございます。事務局，恐縮ですがこの点はひとつよろしくお願いをいたします。また，実際にどういう委員会になるのかということについては，まだ全然中身を考えておりませんでしたので，次回の当委員会で報告をさせていただく，実際にその段階からご検討をいただくというようなことで進めてまいりたいというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

すいません，途中で止まってしまいました。どうぞ委員の皆様方，それぞれご意見おありかと思いますので，ご質問を含めてご自由にご発言をいただければと思います。いかがでございましょうか。第１回目ということで特にこの議案についてこういう議論をということでもございませんので，恐縮ですが各委員の皆様方から少しこの委員会に参加されるに当たりましてのそれぞれの心構え，あるいは疑問な点，またぜひこういう点を考えてみたいといったようなご意見を含めまして，ご自由に一言ずつご発言を賜ってまいりたいと思いますが，よろしゅうございますでしょうか。では，恐縮ですが委員の並びの順番ということで安保委員から一言お願いできますか。何でも結構です。ご自由にいただければと思います。

【安保】　私は法律実務家でございますので，同和問題に関しては憲法の一番大切な法の下の平等の理解をもって京都市は同和行政を進めてこられたんだと思いますが，ただ，法の下の平等というのがどういうものであるのかということが今問われているところだというふうに思います。今回この委員会に参加するに当たりまして，私自身も大学で学びました憲法の本をもう１度読み直してまいりました。それで，憲法に基づいていわゆる私たちが理解してきた法の下の平等の理解をきちんとこの委員会の中で貫きたいというふうに考えています。そのためにいろいろ理解不足のところがありますので，それを貫徹するには，今まで施策の歴史もありますでしょうけども，実態がどういうものであるかということをきちんと理解しなくてはいけないというふうに思っていますので，いろんな関係団体から書面でご意見をいただく場合には，できましたらご意見だけではなくて各関係団体がつかんでおられる実態等についても，行政はいろいろ資料をお持ちだとは思いますけども，その資料の評価というのはなかなか難しい

ものがございますので，できましたらこちらがご意見について理解できるような，そのご意見を出された実態の資料というか，そういうのもつけていただければ，何回もこちらのほうが意見をいただいて，それを理解するについてまた質問し直すとか，そういう重ねることをせずにここで実質的な議論ができるかなというふうに考えています。どうぞよろしくお願いします。

【新川】　どうもありがとうございました。大事なポイントを２ついただきました。前段のほうでは，当委員会の議論の基本にあるのはやはり日本国憲法が保障している法の下の平等，そしておそらくこの憲法が大きな柱にしております人権尊重という，この原則をきっちり踏まえた上で議論をしようということ。それから後段のところでは，特に実態，事実に即して考えていくというのは，やはり行政現場に近いところでこういう委員会で検討させていただくということの意味であろうかと思います。その点でご指摘いただきましたとおり，諸方面からご意見をいただく際に，単にご意見ということだけではなくてきちんとしたデータ，実態，それに関する資料をあわせていただき，私どもも現実をしっかりと認識をした議論ができるようにしたいということでございまして，このあたりは今後意見照会をする際に事務局のほうで少しご配慮をいただきまして，そうした資料の収集にも努めていただき，また各団体にもお願いをするということでよろしくお願いいたしたいと思います。どうもありがとうございました。

続きまして，恐縮ですが，順番になってしまいますが，田多委員さん，よろしくお願いいたします。

【田多】　私は人権擁護委員をさせていただいておりまして，幼稚園ですとか小学校に人権の花運動をしておりまして,そのときに人権のお話をするんですけれども,子供さんの心はもう真っ白なんですけれども，だんだん大きくなられるにつれまして，ちょっとインターネットに書き込んだりとか，どうしてそんなふうなことになるのかなと思っております。継続した人権の取組が必要かなと思います。そして，私は伏見に住んでおりますけれども，啓発活動ですとか人権の学習ですとか，大人の方は参加者が多いんですけれども，小さい子供さん，若い人，そういった方にも参加していただけるように努力したいなと思っております。以上でございます。

【新川】　ありがとうございました。貴重なご意見をいただきました。特に小さい子供

たち，青少年の方々にこの人権の問題についてしっかりご理解をいただく，そしてそれを行動につなげていただくというのは，おそらく私どもの６つ目の検討課題，重要なテーマになろうかというふうに思っております。よろしくお願いをいたします。

中坊委員さん，よろしくお願いいたします。

【中坊】　同和行政の在り方をどのように考えていくかにつきましては，やはり私の個人的な見解で言ったら，水平社宣言で意味していることは少なくとも２つ大きな意味があるというふうに，私は水平社宣言の中で言っている言葉，西光万吉さんが書かはったという文章，あれについては，私は大きな問題点が今日にもなおかつ原点であると言われているところにあるんじゃないかと。その１つは，私はこの文章が最後に「人の世に熱あれ，人間に光あれ」ということで終わっています。その意味は一体何を彼らは言おうとしていたのか。私もそれなりに，いわゆる森永被害者であるとか砒素を飲まされて生涯差別を受けてきた人たち等と接しまして，私が感じましたのは「人の世に熱あれ，人間に光あれ」というのは一体何を言っているか。私は「人の世に熱あれ」というのは，この世は冷たいんだと思います。これはいかな時代にあろうとも，この世はやはり冷たい。今も冷たい。将来にわたっても冷たい。この世は決して人権とかそういう啓発をしてなるものではありません。この世は冷たいものであるというのがどうしても覆い隠すことのできない人間の業のようなものとして存在していると。だからこそ「人の世に熱あれ」ということを祈ってこの文章は終わっていると。だから，「人間に光あれ」ということもまた同様，人間の心は暗いと思うんです。決して教育してすぐにそれになるほど生易しいものではない。だから，差別問題というものの根本は，そういう非常に深刻な人間としての問題の点に本件は関与していると思うんですね。

同時に水平社宣言で，あまり世の中で出ていませんけど，あの文章の中で，いわゆる「自分たちをいたわるかのごとき運動が結局我々を堕落させた」という意味の表現を使っています。まさに原点たるべき，そのときから我々をいたわるかのごとき一連の行動というものが何らの利益を生まずに結果的に我々を堕落させたという表現を水平社宣言が自らしているわけです。そういうことから考えてみますと，まさに同和行政というものはいかにあるべきであるか，ま

さにいたわるかのごときことをやればかえってそれを堕落させることになるということは，水平社宣言自身，彼ら自身が言っていることなんですね。だから，その点を同和行政というものは何でもしたらいいんだと。確かに行政というものが必要であり審議会の意見が出て特別法ができました。そしてまたそれが今度は財政上の措置とかいうことになって，それがまた１０年間も延長されるということになってきました。その間において，そもそも行政というものがあまりにも全面的に出始めたためにかえって堕落をさせたという側面もまた否めない点ではなかったかと思うんですね。だから，そういう意味における行政の限界という言葉がいいかどうかわかりませんけど，要するに行政というものはどうあるべきであったかという根本問題から考え直していかなければ真の差別問題の解決策にはならないのではないか。そういう点も踏まえまして我々はこの問題に取り組んでいかなければならない。すべての原点はやはり水平社宣言の中にあったと，私はこのように思います。

【新川】　ありがとうございます。原点に立ち返って，そこのところからもう１度しっかり考え直していかなければならないというお話でした。この問題を考える上で当然水平社宣言は私どもの出発点の１つでありますが，そこの精神をもう１度しっかり理解した上で今回の行政の在り方ということを考えていきたいというふうに改めて肝に銘じさせていただきました。ありがとうございました。

長谷川委員さん，いかがでございましょうか。

【長谷川】　検討項目を先ほどご説明いただきましたけども，この中身を拝見しますと，１番の自立促進援助金制度というのは法律的な面が非常に強かろうと思います。あと２から５についてですけども，これについては私の専門領域の公認会計士・税理士としての当然数字的な面も絡んでくると思います。ただ，私が日ごろ経営者の皆様とかに指導をしているときにもありますが，その数字だけでは割り切れない部分もあろうかと思いますので，その辺も考慮しながらやっていくべきかなというふうに思っております。それと６番目の市民意識の向上というのは，心の在り方というんですか，非常に私も苦手なところなんですけども，門川市長のお得意の教育というところに，私も小学校，中学校のときに西院のほうに住んでいましたので，途中で同和地区の方が引っ越されてこられまして，そういう体験もしています。心の在り方というんですか，親御さんの方もそう

ですし子供さんも，私はその辺の専門領域じゃないんですけども，その辺を注意して今回，心しなければならないなというふうに思っています。

それと，私どもの公認会計士・税務の領域では，例えばこの頃監査の不祥事といいますのは，ついせんだってまでは監査するほうの立場からいけば監査の能力を高めたり品質を向上せよということが主でしたけども，この２，３年の不祥事，監査法人の解体とかを見ますと，やっぱり監査するほうの職業倫理，粉飾は絶対してはならない，それに粉飾に加担してはならない，それは社会悪なんだということを監査団のものには書いてあるんですけども，そういうことを忘れていることがこういう事件を引き起こしたり，あと税務についてなんですけども，例えば税務でも当然人間の心理としては，経営者の方は税金は安いのがいいのに決まっているのに，税金はいかに社会に役立っているということを指導しながら払ってもらうということも我々の領域でもありますし，あと経営のコンサルの立場からいいますと，単に企業は儲けるだけでなしに，どういうやり方でもうけるか，儲けるという言葉はあれですけども，そういうことも指導しなければならないという経験から，今回同和問題ということで私も経験していないんですけども，頑張って１年間やっていきたいと思います。よろしくお願いします。

【新川】　よろしくお願いいたします。最初にご指摘いただいた財務効率やあるいは財源資金の有効活用という観点は，ごく一般的な言い方になりますが，同和行政終結後の展開を考える上でも重要で，それは単に節約をせよということではなくて，ほんとうにお一人お一人の市民の方々にとって一番いい使い方というのをしっかり考えていきましょうということにつながるんだろうというふうに思っております。この場でもそういう観点でぜひご議論をいただければというふうに思っておりますし，教育の問題は本当に私たち自身もしっかりとした倫理観というのをこの問題について持たないといけないなと思いながらお話を聞いておりました。ありがとうございました。

細田委員さん，いかがでございましょうか。

【細田】　私は労働組合という立場からいきますと,実はさきの２月の市長選挙の中で,正直言って職員の不祥事の問題とこの同和問題が何かいかにも選挙の争点になっていたような感じがいたしました。しかし，一方では一生懸命働いている方

もおられますし，一生懸命いろいろな形で貢献されている方もおられる中で，同和行政，何がそうさせ何がそういう課題になったのか。そして一方では人権とか平等とかいろいろあるわけですけど，一般の市民の方と旧同和地区の方々がいかに一体感を持ってお互いがきちんと理解をし合いながらこれからをどうして進めていくかというようなところに，私も労働組合として少しこの委員会の中でお話というか点検の中でさせていただきたいなということで今回この委員会に入らせていただいたということでございますので，よろしくお願い申し上げます。

【新川】　ひとつよろしくお願いをいたします。

それでは，山本委員さん，よろしくお願いいたします。

【山本】　２つばかり申し上げたいと思います。

まず１つは，私は昭和４２年から放送界に入って様々な番組を制作してまいりましたが，この４２年以降，同和の問題，人権の問題については随分世の中の認識は変わってきたということが実感です。改めて細かくは申し上げませんけれども，やはりそれは進歩と言って僕はいいというふうに思っております。しかしながら，ここ５年ぐらいの動向を見ていますと，制度，行政というのはその時代時代に即した生き物だということは思っているんですけれども，放送の現場なんかにいまして，この５年間ぐらいを見ていますと，市民といいますか国民がこの問題について見つめる視線というのは非常に厳しくなってきていると。これはこの問題だけじゃなくて，いわゆる毎日よくテレビで放送されますようないわゆるコンプライアンスの問題，それから情報開示の問題，さまざまな側面できちっとした説明ができると。それを市民，国民が理解，了解していただけるというふうな在り方といいますか，非常にそれは厳しくなってきていると。おそらくこの問題についても流れがもっとどんどん進んでいくと思いますが，そういう状況の中でどう考えていくのか。このリポートの中にも書いていますように，市民の共通理解が得られるような検討の仕方，在り方というのが最大の使命じゃないかなというふうに思います。

それから，２つ目なんですけれども，委員をお受けするときから痛感していたんですが，ある意味で総論賛成だけど各論はものすごい難しいということだと思うんです。ですから，ここで出されている６つの問題にしましても，非常

に一つ一つは難しい問題をはらんでいると思うんですが，僕はその一つ一つの検討と同時に，だからこそやっぱり総論が必要だろうというふうに思います。先ほど中坊先生のお話を聞いて，全くその辺の原点，ある意味でこれから先を行政として，あるいはこの委員会としてどういう展望を持って臨んでいくのかというふうな各論のいろんな検討と同時にこれから先の在り方みたいなもの，つまり痛感するのは，これを読んでいて同和固有の問題であったのが今や国民的問題になってきていると,国民共通の課題じゃないかと。少子高齢化にしろ，あるいは公営住宅の老朽化，この辺はもう私が住んでいる地域を見ても非常にシビアな問題であるというふうなことも含めて，どういうふうにこの問題を位置付けていくのかというふうな大きな展望といいますか流れを打ち立てていくことで市民の理解が得られるというふうに一方でつながっていくんじゃないかと思いますので，ある種の最後の理念的な部分になるかもしれませんが，その辺もぜひ重視して考えていきたいなというふうに思っています。以上です。

【新川】　ありがとうございました。前段お話をいただきました，本当に市民の皆さん方の，そしてもっと広く言えば国民全体のご理解が得られるような明確な透明性の高い公平な議論の仕方，そして十分な説明ができるような審議とその結論ということを私たち自身も心がけたいというふうに思っておりますし，その際にも，やはり原理原則は大事にしたい。この６つの項目については，私もちゃんとした結論が当委員会１年間で出せるかどうか，実はここに座っておりましても難しいなという気持ちのほうが先に立っております。しかし，原理原則に立って我々なりに何とか解決策を見出していきたいというふうに考えております。ひとつよろしくお願いいたします。

それでは，渡部委員さん，お願いできますでしょうか。

【渡部】　まず，今まであまりこういう問題について勉強したことがないので，よく勉強させていただきながらそれぞれのところについて議論に加わってまいりたいと思っております。昔から私どもは努力しなさい，努力した者が報われる，そういう社会を築いていかなければならないということを一生懸命教わり，そして勉強して，そういう社会を築こうと思ってやってまいりました。しかし，そうしてきた結果，今度は所得格差をはじめとしていろんな格差の問題が出てきまして，努力した者が報われる，そういう社会というのと格差問題とをどう考

えていったらいいのかなという新しい課題を突きつけられております。これは今，こういう同和問題を勉強するときにもやはり同じことが言えるのではないかなというふうに思っておりまして，そういうところをうまくきちっと総論として哲学的にまとめていかないといけない，そういうものではないかなというふうに思っております。

それから，各論といたしましては，今日いただきました資料は平成１２年８，１７２名というふうな人口の推移の資料をいただきました。世帯数もいただきましたが，今，平成１９年とか２０年とか直近のところで，今日いただいた資料には崇仁で１，５００名余りと，こういう人口が示されておりますが，それぞれの地区でいきますとどういうふうな推移になっているのかと。予算の推移はグラフでいただきましたが，人口の推移とか世帯の推移というふうなところで将来どういうふうな見通しになっていくのかということを考えた上で我々は手を打っていかなきゃいけないのではないかなというふうに思っておりまして，そういうできるだけ詳細の資料をいただけたら我々もまた考えを深めていきたいと，このように思っております。どうかひとつその点よろしくお願いをいたしたいと思います。いずれにいたしましても，今のところまだ勉強不足でございますので，これから一生懸命勉強していい議論になっていければと思っております。

【新川】　よろしくお願いいたします。差別あるいは格差の問題は古い問題ですが，また今の新しい問題でもある，そして将来に向けて解決していかなければならない問題だという観点で議論ができればというふうに思っております。なお，データ面につきましては，事務局，恐縮ですがよろしくお願いをいたします。

続きまして，行政からの委員でございますが，西村委員さんももしよろしければ一言お願いしたいのですが。

【西村】　文化市民局の職員の西村と申します。大変重い検討項目について提起させていただきまして非常に恐縮しております。この問題につきましては，門川市長の指示のもとに庁内にも同じように局を横断する組織としてプロジェクトチームを設置いたしております。プロジェクトチームだけで検討するには非常に荷が重いという中でこの点検委員会を立ち上げました。委員会のご意見，これも先ほど市長が申し上げましたとおり，取りまとめられたものにつきましては速

やかに実行に移していくと。その準備も含めまして私どもはそのつなぎ役の役目を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

【新川】　よろしくお願いをいたします。

最後になりますが，副委員長，リム先生，一言よろしくお願いいたします。

【リム】　リムでございます。よろしくお願いいたします。２１世紀の人類的な課題として２つあると思うんですけれども，１つは環境問題と人権問題というのが，これは確実にあるわけですけれども，最近勉強していてつくづくなるほどと思ったんですけど,部落差別の問題というのは実は環境問題から端を発していて，それが人権問題だと。だから人権と環境ということを同時に考えさせる，つまり未来に向けて我々にいろんなことを考えさせてくれる非常に重要な文化的なテーマでもあるわけですね。ですから，最近世界のいろんな歴史都市に行きますけれども，部落差別のような問題というのは京都だけじゃなくて世界中に古い都市ほど必ずある。ですから，我々はよく同和行政の議論をするときにみんな暗い雰囲気で議論をなさるんですけれども，私はちょっと頭が悪いのか，この問題を考えれば考えるほど何か可能性というものを考えてしまって結構わくわくします。特に今回は門川市長のほうから同和行政がどうこうよりも同和不信を払拭したいとおっしゃったのが私は非常に胸を打たれました。私自身は１５年ぐらい旧同和地区，いわゆる被差別部落で地域の人たちとまちづくりにかかわったりしてきて，時には運動団体の人たちに対して厳しいことも言ってきたりしたんですけれども,そんなときにある行政関係者の方から言われました。それはリムさんだから言えるんだと。なぜかというと，私は在日朝鮮人ですので部落民よりももっと差別される人だから言っても部落の人は聞いてくれるんだと。確かにそういう部分もあるのかもしれません。私たちよりあなたたちのほうが優遇されているじゃないかと言うと,みんな何も言わなくなるんですね。しかし，それだけではなくて，運動団体の中の人にも地域住民の方の中にもまじめにこのことを真摯に受けとめている人もいらっしゃいます。私はそういった人たちとのまちづくりの可能性というものも一方であると思います。

私なりにこれまでの同和行政というものを分析してみますと，光の部分という意味では，やはり京都の町に同和地区が社会資本として存在するようになったことです。社会資本として活用し切れていないわけで，半世紀にわたって社

会資本を営々としてつくってきた。それからもう１つは，とかく日本の行政というのは縦割り行政という批判を受けるわけですけれども，同和行政に限っては極めて部局横断的に対処されてきた，この行政手法というのは極めて先進的だと思うんです。しかし，それが市民に対して一般的に適用されるものではなくて，極めて閉じたところ，見えないところで行われている，これが問題だったなと思います。一方で運動団体，地域住民側にとっては行政依存というのが確かにあります。これはもう徹底的に払拭してもらわなきゃいけないし，運動団体の人や部落の出身の人たちは，旧同和地区というのは自分たちのふるさとでありコミュニティであり，ある意味で自分たちのアイデンティティのよりどころかもしれないけれども，だからといって自分たち，彼らのものではないわけですね。もはや改良住宅なんていうのは市民の財産であるわけですから，それと自分たちのコミュニティの環境をどう考えるのかということを考えてもらわなければいけない。そういった意味では，私は京都市民の多くが自分たちの地域に被差別部落があるのをやっかいなものがあるというふうに感じている人がいらっしゃると思うんですけれども，しかし，同和行政をもう１度総点検してこの可能性を見ると，同和地区という非常にすばらしい社会資本が部落があってくれたおかげでできたわけですね。このことをどう市民の共有財産にしていくかということが問われている。そのためには，この委員会が現地視察に行くのも大事なんですけれども，これから多くの市民が旧同和地区にかかわるプロセスをどうつくるのかということが非常に大きな課題かなというふうに思っています。

あと，事務局に対してのお願いなんですけれども，６つの論点があるんですけれども，これは委員長もおっしゃいましたけども，どれも非常に大きなテーマであって，１回か２回議論して結論が出るかというと，普通はこういうことを議論するとみんな好きなことを言い出して，言ったきり終わってしまうということになりがちですね。私のほうは要望なんですけど，先ほど中坊先生がご指摘されましたように，行政の言い分だけじゃなくてウォッチャーのご意見，それから運動団体のご意見，それから地域住民の方のご意見，いろいろ聞いてこの委員会として総合判断されるというのは，私はまさにそのとおりだと思うんですけど，他方で事務局の行政としてはそれぞれの各論についてどういう方

針を持っているのかというのは出していただきたいと思います。逆に言うと方針が持てないということも回答だと思います。ですから，それを出していただいて，それに対して私たちはそこがおかしいとかここはいいとか，もっと違う手法が要るとかということが議論できるので，そこは出していただきたいと思います。そのためにも多くの委員の先生がおっしゃいましたけど資料は絶対つけてほしい。例えば１回目の自立促進援助金制度に関しては，自立促進援助なんですから自立を要する人に対してやっている施策のはずなんです。それを受けた人の世帯の年収は幾らなのか，その中には民間人がどのぐらいいるのか，公務員は含まれていないのか，そういったことも含めて自立援助の効果がどういうふうに発揮されたのかというところが検証できる資料を例えばいただきたいというふうに思っております。以上です。

【新川】　どうもありがとうございました。とてもすばらしい新しい視点をいただけたかと思います。この問題をむしろプラスの価値として考えていく，京都市民が共有できるすばらしい社会資本としてこれまでの同和行政の積み重ね，そしてこの地区の在り方というのを考えてみる，それこそがひょっとするとこの２１世紀の人権と環境という地球的な課題への回答かもしれない，そんな思いを抱きながらお話を聞かせていただきました。しかし，同時にこのことを京都市民の皆様方に広く知っていただくということが必要でございます。この問題を私たちがどういうふうに議論し，そして将来に向けての展望を開こうとしているのか，このプロセスに多くの市民の方々に関心を持っていただき，知っていただかなければならないというふうに私も思っております。この委員会の場は公開でございますけれども，もっともっといろんな手立てを通じて幅広く市民の皆様方に私どもの議論を知っていただきたい，またいろいろご意見をお寄せいただきたい，そういうチャンネルを多く開いていきたいと思います。今日もマスコミ各社おいでいただいております。ぜひ関心を持って報道していただき，また多くの読者，視聴者の方々からのご意見をフィードバックしていただければというふうにも思っております。ちょっと余計なことになってしまいましたが。なお，行政としてもしっかり方針を出して我々の議論に参加せよということもございました。ここは市長はじめ事務局の皆様方にもよろしくお願いを申し上げたいと思います。

一当たりご意見をいただいている間に予定の時間を過ごしてしまいました。本日のところは入り口のところ，当委員会の審議内容全般にわたりましてご説明をいただき，委員の皆様方からそれぞれのお考えをお伺いするということで止まっております。実質的な審議は次回以降ということにさせていただきたいというふうに思います。

恐縮ですが時間もまいっておりますので，今日の残りの課題のほうに進めさせていただきたいと思います。

議題の２番目は「今後の委員会の進め方について」ということでございます。これについて事務局から恐縮ですがどういうふうに今後進行を考えておられるのかご説明をお願いいたします。

【事務局】　それでは，資料の６，お配りしたときには一番最後におつけしています１枚ものでございますが，「総点検委員会のスケジュールについて（素案）」という資料をご覧いただきたいと思います。

この資料は，今後検討をいただきたい６つの項目を，冒頭市長のあいさつにもありましたように，そのうち自立促進援助金については早い段階で中間の報告をいただきたい，あるいはコミュニティセンターや改良住宅の問題についてもできるだけ早くご意見を実施に向けて予算面等に反映させていきたい，そういったことからこれらについてもできれば中間報告を早目にいただきたいというようなことを勘案しまして織り込んでみたイメージ図というふうにご理解いただきたいというふうに思います。

本日の委員会の中で，このほか自立促進援助金につきましては少なくとも先立って法的な整理が少し必要ではないかということで，専門委員会の設置についてご了承いただいたところでございます。また，中坊先生をはじめといたしまして，いわゆる関係団体や京都市とは異なる意見を持たれている方々からの意見聴取，こうしたものを実質的な議論に先立って行うべきではないかというご提案もいただきました。また現地を見たいというお声もあるというふうに理解をしてございます。そうしますと，こういった日程を織り込みながらということでいきますと，少し２回目以降のスケジュールを見直すとともに，今は月１回のイメージで考えておりますけども，年度前半については月に複数回の開催といったことも少し視野に入れなければならないかなというふうに考えてご

ざいます。

それから，現地視察等々との兼ね合いですけれども，意見を文書で提出いただくことを求めるには一定の時間を設けなければならないと考えておりますので，そうしたことも踏まえまして，次回第２回につきましては現地視察を中心とするようなメニューにいたしまして，第３回目までの間に意見の聴取ですとか専門委員会での整理ですとか，そういったことを済ませて第３回目以降を迎えたいと，こんなふうに今，考えているところでございます。

【新川】　どうもありがとうございました。今，ご説明をいただきましたような今後のスケジュールでございますが，とりあえず次回は，まずは現地に入っていただいて視察をいただこうということ，それからその次の回，こうした委員会形式で今日ご要望のございました資料，各関係団体その他からのご意見や資料，そうしたものをご提出いただいて議論を始めると。議論の順番といたしましては，今日，検討項目を出していただきました各項目について順次検討をさせていただくというような形でまずは考えておきたいと思いますが，この点につきまして，委員の皆様方，こういう進め方で当面よろしゅうございますでしょうか。はい，どうぞ。

【中坊】　正直言ってコミュニティセンターも私は行ったことがないんですよね。崇仁地区のところをずっと自分の足で歩いたこともあまりないと思うので，通りすがりだけだと思うんですね。だから，これは勝手な私個人のお願い，あるいは各委員もそうかもしれませんけれど，できたら事務局を通じて私たちが現場へ行くときに何らかの連絡をとっていただくとか，これは全員がそろって見学会というわけにもなかなかあれだと思うんですよ。だから，各委員がそれぞれ事務局を通じて勝手に行くんじゃなしに,事務局に連絡して,これはかなり急ぐ,集中してやらないかんわけですから，その前に現場に行くことが大切だと思いますので，自分なりにそれぞれの各委員が自由に勝手に行くというんじゃなしに，事務局を通じて現場へ行けるようにひとつ事務局のほうでご手配いただいて，あるいは連なっていくこともいいかもしれないし，あるいは単独で行かれるのもいいと。そういう段取りを事務局と各委員がとれるようにご配慮いただけたら結構かと思います。

【新川】　今，中坊委員からございましたように，できれば当委員会として現地に入ら

せていただき視察のほうを進めていきたいというふうに思っておりますので，事務局のほうでそのようにご調整をいただければ，これが一番いいかと思いますのでよろしくお願いをいたしたいと思います。日程等についてはどういうふうに考えましょうか。事務局のほうで何か考えておられますか。

【事務局】　今，お話がありました実地視察，これの手法，日程等につきましても，またそれぞれ委員長とご相談させていただきたいと思います。また，こういったものを特に年度の前半に相当詰めたスケジュールで委員会開催をお願いするということになりますので，委員の皆さん，大変お忙しい中，誠に恐縮でございます。そういった関係で少しでも日程調整等で委員の皆様のお手を煩わすことのないよう，できれば今後の開催につきましては定例的に曜日を設定していきたいというふうに考えておりまして，今，考えておりますのは原則第１・第３水曜日の午後を定例的に開催させていただいてはどうかというふうに考えてございます。

【新川】　ありがとうございました。いろいろご都合もおありかと思いますが，定例の会合については第１・第３水曜の午後を，若干調整をさせていただくことはあろうかと思いますが，原則に考えたいということでございますので，これはひとつよろしく何とかご協力のほどをお願いしたいと思いますが，よろしゅうございますでしょうか。恐縮ですがひとつよろしくお願いをいたします。なお，現地視察等の日程につきましては，また改めて事務局のほうから調整をさせていただくということにしたいと思います。

以上，本日とりあえずやっておかないといけないことはこれぐらいかと思いますが，事務局，何か抜かしているところはございましたでしょうか。はい，どうぞ。

【中坊】　その視察というのが，みんな寄って一緒に視察するときもあれば，各人それぞれの日程もあるから，それを事務局に連絡すれば，勝手に行くわけじゃありませんので，浴場とか住宅も自分たちの時間のとれるときに行くのに事務局のほうで便宜を図っていただいて，もちろんみんなで一緒に行くときもあってもいいと思いますけど，そうしないと各人それぞれ日程があって動くので，そういうふうに配慮していただいたら。

【新川】　ありがとうございます。委員会としては，ぜひ委員の皆様方にそれぞれの現

地・現場に行っていただきたいというふうに考えておりますので，それぞれの委員のご都合もおありでしょうから，その点については一応ここでの仕組みとして，私，委員長のほうにお申し出をいただき，事務局と調整の上，各委員のご都合に合わせて現地に行っていただく，それから現地での対応については事務局を通じて調整をさせていただく，そういうような仕組みで進めてまいりたいと思います。できればみんなで一緒に行けるというのが現地にとっても対応としてはやりやすいかなという感じはいたしますけれども，各委員のご都合に応じて多少ご迷惑をおかけする場合もあろうかと思いますが，今の中坊委員のようなご事情もございますので，そういう扱いをそれぞれさせていただくということでよろしゅうございますでしょうか。それではそういう方向で進めさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

その他何かございますでしょうか。事務局もよろしゅうございますでしょうか。

【事務局】　ただいまご意見をいただきました現場視察の件でございますが，先ほども申し上げましたとおり，委員会としての現地視察も考えさせていただきたいと思いますが，地理的な問題，時間的な問題で限られた時間に限られた施設しかご覧いただけないことになろうかと思いますので，中坊委員ご提案のそれ以外の施設に各委員さんの方がおいでになられる場合につきましては，委員長ご提案のとおりしていただきましたら，我々事務局のほうですべて対応させていただきます。よろしくお願いいたします。

それから補足でございますけれども，市民の方々からの意見の聴取等についてでございます。本日も傍聴席を設けまして一般の方々に傍聴していただいていますが,こうした方々からの意見をどうするかということでございます。今，事務局として考えてございますのは，この会議は原則公開ということで，ここでお配りした会議資料や後日まとめます会議内容の議事録については速やかに本市のホームページ等により広く公開をしたいと考えております。その際に市民の皆様からのご意見をお受けするような仕組みを設けたいと思っておりまして，また，この会議を傍聴された皆様にも意見を提出していただけるような用紙を配付してございます。そうしたご意見等を取りまとめまして，それぞれの委員会の開催の前に委員の皆様にお示しして，またそれらにつきましても委員

会の運営の参考にしていただきたいというふうに考えています。

なお，議事録につきましては，事務局のほうでテープから作成したものにつきまして委員長にご確認をいただきたいというふうに考えていますけれども，それでよろしゅうございますでしょうか。

【新川】　ただいま事務局からお話がありましたが，１つは市民の皆さん方からのご意見，傍聴者の方からのご意見を積極的にいただいて委員の皆様方にお示しをさせていただく，そういう扱いでよろしいか，それから２点目は，この委員会の議事録について公開をし，広く知っていただき，またご意見をいただくということになりますが，この議事録につきましては私のほうで確認をさせていただいてホームページ等で公開させていただく，以上２点，そういう方針でよろしゅうございますでしょうか。ありがとうございました。ご確認をいただきましたので，そのようにさせていただきます。

事務局，そのほか何かございますでしょうか。

【事務局】　本日は長時間にわたり大変貴重なご意見，ご提案をいただきましてほんとうにありがとうございました。我々事務局としましても，今後の委員会が円滑に運営でき，所期の目的が達成できるよう精一杯努力いたしますので，委員の皆様方におかれましてもお気付きの点やご意見等がございましたら，この場に限らず事務局までちょうだいしたいと存じます。いただいたご意見を今後の委員会の運営に反映してまいりたいと存じますので，この場をお借りいたしましてお願い申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

【新川】　どうもありがとうございました。門川市長さん，最後ですが，もし何か一言ありましたら。

【門川】　限られた時間でありますけども，本当に中身のある，また私自身背筋の伸びるような思いで一言一言聞かせていただきました。京都市の同和行政，非常に輝かしい前進があったと同時に負の側面があったことも事実であります。しかし今この時点でポジティブに受けとめて，ここから新しい京都市政が始まっていくんだと，新しい市民ぐるみのまちづくり，そして人権，環境，憲法の話もございました。人間の生き方，哲学の話もございました。そうしたことを大事にしながら一つ一つの各論について落とし込んでいきたい，そのように思います。どうぞ厳しいご意見も含めて，また市民ぐるみの論議が巻き起こってきま

すことも祈念いたしまして，本当にお忙しい中ありがとうございました。過密日程でございますが，私どもも全力投球しますので，先生方，ひとつよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

【新川】　どうもありがとうございました。それでは長時間にわたりましてご協力をいただきまして本当にありがとうございました。以上をもちまして第１回目の会議を終了させていただきます。本当にご苦労さまでございました。

――　了　――